別記様式２－２号

受付
第　　号
7.4.30
坂井市議会事務局

視察研修等報告書

令和７年　４月30日

坂井市議会
議長　戸板　進　殿

会派名　創政会
代表者名　田中哲治　[redacted]

１．日　時　　令和７年３月２４日（月）　～　３月２５日（火）

２．視察研修先　（１）子ども第三の居場所「いがっこの家　上野忍」
三重県伊賀市上野忍町 2447-2
（２）大和郡山市観光協会
奈良県大和郡山市高田町 92-16
市民交流館「きんぎょの駅」

３．視察研修内容　（１）子ども第三の居場所「いがっこの家　上野忍」の取り組みについて
（２）金魚とお城と桜を活かした観光戦略について

４．参加者　　前川徹、山田秀樹、岡部恭典、廣瀬陽子

５．内容詳細

◆１日目
（１）子ども第三の居場所「いがっこの家　上野忍」の取り組みについて

伊賀市社会福祉協議会会長　　平井俊生　氏
伊賀市社会福祉協議会企画調整課
いがっこの家上野忍　運営マネージャー　内海　学　氏
伊賀市健康福祉部こども未来課
主幹兼企画総務係長　　半田政之　氏

「いがっこの家　上野忍」は、伊賀市社会福祉協議会は、伊賀市及びＢ＆Ｇ財団と連携して、令和６年９月より、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的とした「子ども　第三の居場所事業」に取り組んでいる。

この事業は、家庭の複合的な課題に寄り添い、子ども一人ひとりの個性や状況に応

じた学習支援や生活支援、居場所の提供を行う。これらを通じて子どもの自己肯定感を高め、健全な生活習慣と社会性を身に付けるとともに、自分の力で生きる自信の涵養と豊かな成長を促すことを目的としている。

家庭の複合的な課題を抱える小学生を中心とした子どもを対象としており、定員は２０名、月・水・金の１５時～２０時（年末年始・祝祭日を除く、長期休暇は変更あり）に開設している。

◆２日目

（２）金魚とお城と桜を活かした観光戦略について

（一社）大和郡山市観光協会事務局長　　平井俊生　氏
（一社）大和郡山市観光協会学芸員　　沢田忠弘　氏

郡山城は筒井順慶の築城(1580 年)に始まる大和でもっとも大規模な城郭である。城郭は徐々に整備され、豊臣秀長の時代にほぼ完成した。古くから桜の名所としても知られ、1990 年には「日本さくら名所 100 選」のひとつに選ばれた。さらに、2022 年 11 月 10 日には、国の史跡に指定されている。毎年桜の時期に合わせ、大和郡山お城まつりを開催している。

また、1995 年から全国金魚すくい選手権大会が開催され、全国から多くの人が訪れる夏の名物イベントとなっている。

大和郡山市では、お城と金魚のほかにも、ひな祭りやアジサイなど、観光資源を活用し、毎月イベントを行い観光につなげている。イベントは行政が行うだけでなく、地元の団体などとも協力し、行われている。

６．所見・感想等

（前川議員）

●子どもの第三の居場所「いがっこの家　上野忍」の取り組み

Ｂ＆Ｇ財団が伊賀市に助成して施設整備・運営を行うもので、運営については市の補助事業として伊賀市社会福祉協議会が行っている。開設費助成金は 5,000 万円、運営費助成金は最大 2,880 万円（80 万円×36 カ月）である。令和６年９月にオープンし、現在、上野西小学校に通う小学生と、そのきょうだいの中学生、合計 10 人が、月・水・金の週３日、午後３時から８時まで利用（夕食あり）している。

社協の生活困窮支援を受けている家庭で、金銭的なことや親の就労時間の関係で学童保育が利用できない家庭が利用している。制度のはざまにある「福祉・生活課題」の解決に取り組む、社協らしい事業であり、Ｂ＆Ｇ財団の運営助成金が終了する３年後も引き続き市の補助を求めており、市もそれに応えていきたいというものであった。これを一つのモデルとして、市内各地で市民協働による事業の展開を目指すという平井社協会長の熱意も感じられた。

坂井市においても、子どもの居場所づくりがいろんなケースですすめられているが、

このような学童保育が利用できない家庭への支援も、真剣に考えていく必要があると感じた。

●金魚とお城と桜を活かした観光戦略

大和郡山市は、江戸時代からの歴史を持つ、全国有数の金魚の生産地であり、大和郡山城の桜と戦国ロマンが漂う町は、金魚が泳ぐ城下町として、多くの観光客が訪れている。県都奈良市に隣接し、ＪＲ線と近鉄線の駅があり、公共交通にも恵まれているが、ほとんどが日帰り観光客である。そのニーズを活かして隣接する市町村と連携した観光協会日帰りツアーは参考にすべきものであった。

城下町の通りには「金魚すくいの道場」や藍染めの体験施設、元遊郭建築のカフェや、金魚が泳ぐ商店街（柳町商店街）があり、観光客を楽しませてくれる。ただ、道幅は狭く自動車での観光は不便であることから、観光協会ではレンタサイクル事業を展開しており、土日祭日は大変人気だと上西事務局長から説明を受けた。

坂井市においても丸岡城の城下町を活かした観光戦略が必要で、丸岡城の桜の整備のほか、越前織のテープやワッペンを作ることのできる体験施設、レンタサイクル事業の充実、観光客が訪れる商店街づくりなど、丸岡城観光情報センターを中心とした広がりを考えていく必要があると感じた。

（山田議員）

○「いがっこの家　上野忍」

学校や家庭に居づらい子供の居場所で、市の社会福祉協議会が学習や生活の支援を通じて、地域で子育てを支えようと開設された。

食堂、台所、多目的室、学習コーナー、相談室、風呂場を有し、

昭和初期に建設された小学校の講堂を移築し大幅に改修されたもの。

年末年始以外の　月・水・金曜（祝日除く）の午後３～８時、

近隣の小学生ら１０人受け入れている。

生活習慣や学習の指導、食事の提供などを通じて将来の自立に向けた力を養う。

昔は祖父母と同居していたり、近所に親せきがいたり、地域のコミュニティーがあったりして、そこで相談して解決していた、または解決しないとしても、周囲が子育てをサポートしてくれる環境があった。しかし、核家族化が進んだ現在では、相談先もなく、手伝ってくれる人もいない、子どもをちょっと預かってもらって離れる時間も取れないことで、孤立して悩んでいる母親も多い。コロナ禍でその傾向はさらに強まっているともいわれている。子育てに困難を感じる母親は約 26%、つまり 4 人に 1 人の母親が困難を感じている。B&G 財団（東京）が開設費 5 千万円と今後 3 年間の運営費として月 80 万円を支援。4 年目以降は国の交付金を活用して市が運営を続ける。B&G 財団は日本財団とともに全国で「子ども第三の居場所」の設置を進めており、伊賀市いがっこの家 上野忍は 236 カ所目。

常駐スタッフの「このまま周りが何もせずこの子たちが大人になれば、又同じことが繰り返される可能性が高い」と「大きな手応えを感じている」の言葉が印象的だった。

○大和郡山市観光協会
城下町である大和郡山市。江戸時代、明治に栄華を誇った
藍染め屋、茶屋、遊郭、造り酒屋、個人宅など当時の面影が多く残った
建物群を無料で観覧できる。源九郎稲荷神社など、多くの
寺社も残されており、平城京跡、郡山城跡をはじめとした市内散策は大いに楽しめ
レンタサイクルも用意されている。
そのような観光資産を有する大和郡山市だが、安穏とはせず、
もうひとつ観光の目玉を創出し、二本立てで行く必要性を感じ、選ばれたのが
「金魚すくい」であった。沼地が多く、金魚を生育させる湧水の調達が
容易であり、今では世界大会も行われ、
競技はすべて３分間に１人１枚のポイ（すくい網）で何匹すくえるかで競われる。
大会有力選手は９０匹をすくうことが出来る。
観光の目玉の二本柱で観光客誘致の効果を上げている。
本市においても既存の観光地に加え、地の利や環境を活かした参加型の
観光資産を取り入れていく事が大切だと感じた。

（岡部議員）
令和７年３月24日（月）

➢ 「子ども第三の居場所」三重県伊賀市「いがっこの家上野忍」

坂井市でも令和７年度より「子どもの居場所づくり」事業に取り組むこととしているが、三重県伊賀市社会福祉協議会が開設・運営している「いがっこの家上野忍」の事例を学び、坂井市の子どもの居場所づくり等、児童、生徒の教育、福祉の推進を図ることを目的に視察を行った。

伊賀市社会福祉協議会は、伊賀市及びB&G財団と連携して、令和６年９月より、子どもたちが安心して過ごせる環境で家庭の複合的な課題に寄り添い、自己肯定感、人や社会と関わる力、生活習慣、学習習慣など、将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的に「子ども第三の居場所事業」に取り組み「いがっこの家上野忍」を開設・運営している。

① 活動内容
- 学習支援・・・日常的な学習習慣の定着を目的としての支援活動
- 生活支援・・・入浴や歯磨きなど基本的な生活習慣を身に付けるための支援活動と必要に応じた食事提供
- 居場所　・・・心のより所となる安全・安心な居場所の提供。子供と保護者への相談支援活動

② 利用対象となる子ども
- 家庭の複合的な課題を抱える子ども
  定員20名（1日の利用：7名以上予定）現在10名（男子３名、女子７名）
  （小学生７名：中学生３名）

シングルマザーの家庭、多子世帯の家庭など

③ 利用曜日、時間、利用料

- 年末年始を除く、月・水・金の 15：00～20：00　利用料＝無料

④ 施設整備及び運営主体

- 開設費助成金：5,000 万円　総事業予算：6,000 万円
- 運営費助成金：最大 2,880 万円（80 万円（人件費・食料費）＊36 ケ月）
  B&G 財団の補助金

⑤ 運営形態

- スタッフ常勤：1 名、非常勤：4 名（学習支援＝大学生の協力・生活支援）、ボランティア
  ・・日常的な学習習慣の定着を目的としての支援活動

「子ども第三の居場所」三重県伊賀市「いがっこの家上野忍」の事業に賛同してくれる地元の企業からの寄付が約 1,000 万円あり、施設の家具や食器類などは寄付で賄われている。また、食事の提供に係る食材は、地元の農家の方や生協、スーパーからの寄付で、学校の給食のメニューとは別メニューで学校の調理員がつくっている。

施設運営のルールとして、スタッフは子どもたちの家庭のことは一切聞かない。学校での様子は、校長先生などからの聞き取りで、不登校の子は学校へ行くことを条件に預かっている。

伊賀市社会福祉協議会は、制度のないところをつくりだす、子ども、家庭が困っているところを支援する、さらに、地域で子育てをする、家庭だけでは限界があるという思いで事業を行っており目的がはっきりしていることに感銘を受けた。

令和 7 年 3 月 25 日（火）

➢ 「金魚とお城と桜を生かした観光戦略」

奈良県大和郡山市　一般社団法人大和郡山市観光協会

大和郡山市のお城と桜、そして金魚を生かした観光協会の取り組みを学び坂井市の観光地域づくりの推進を図ることを目的に視察を行った。

大和郡山は、奈良県では数少ない城下町。郡山城は、戦国大名筒井順慶の築城に始まり、豊臣秀長によって百万石の領主にふさわしい城郭と城下町がつくられた。

また、大和郡山の金魚養殖は、江戸時代の郡山藩主柳澤家の奨励に始まるもので城下町では様々な金魚スポットに出会える。

大和郡山市は、隣に奈良県一の観光地である奈良公園をはじめ東大寺、春日大社などの観光地を有する奈良市があるため、どうしても通過型の市になっている。

しかし、大和郡山に観光客を誘客するために観光協会をはじめ様々な団体が主体となって、毎月イベントを開催し市を盛り上げている。

中でも 3 月 24 日から 4 月 7 日に開催される大和郡山お城まつりは、「日本さくら名所 100 選」に選定されている郡山城の桜の開花時期に併せて開催され、60 年以上続く、大和郡山市における春の一大行事となっている。約 24 万人の観光

客が訪れるとのことである。天守閣を持たないお城であるが、郡山城跡の天守台に登れば、城下町と奈良盆地を 360 度見渡せる素晴らしい眺望であった。天守台に続く道には数多くの露天が並び、数多くの子どもたち家族連れで賑わっていた。また、観光協会には城下町を巡るための自転車が用意され、城下町を楽しむことができる。

8 月には 1995 年から開催されている、大和郡山夏の名物イベントである全国金魚すくい選手権大会が開催され、全国各地から多くの人が訪れる。

秋には、JR 郡山駅周辺の賑わい創出を図るため「きんぎょの駅」に因み「金魚」を冠したイベントを実施している。

地域の歴史と素材を生かした観光戦略を坂井市においても実施しているが、如何に各種団体、市民との連携を図るかが重要と感じた。

（廣瀬議員）

■三重県伊賀市

子ども第三の居場所「いがっこの家　上野忍」の取り組みについて

対象を「家庭の複合的な課題を抱える子ども」とし、市が生活困窮支援を行なっている家庭を対象に、学校側と相談し対象者に声をかけている。現在は、ひとり親家庭や多子家庭の子が利用している。対象者を絞り、子ども第三の居場所を運営することで行政からの支援に入らない部分を補っているように感じた。坂井市もコミュニティセンターで子どもたちの第三の居場所を検討されているが、本当に支援を求めいている家庭の子が集える場所になるようにする必要があると感じた。

運営スタッフもボランティア募集だけでなく、サポーター養成講座を実施し、初めて子どもとのボランティアに参加する場合にも参加しやすい環境が作られており、住民主体で取り組む環境整備も素晴らしいと感じた。

Ｂ＆Ｇ財団の助成を 3 年間限定で受け実施されている事業であった。坂井市でも導入することを検討すべきと感じた。

■奈良県大和郡山市

大和郡山観光協会「金魚とお城を活かした観光戦略について

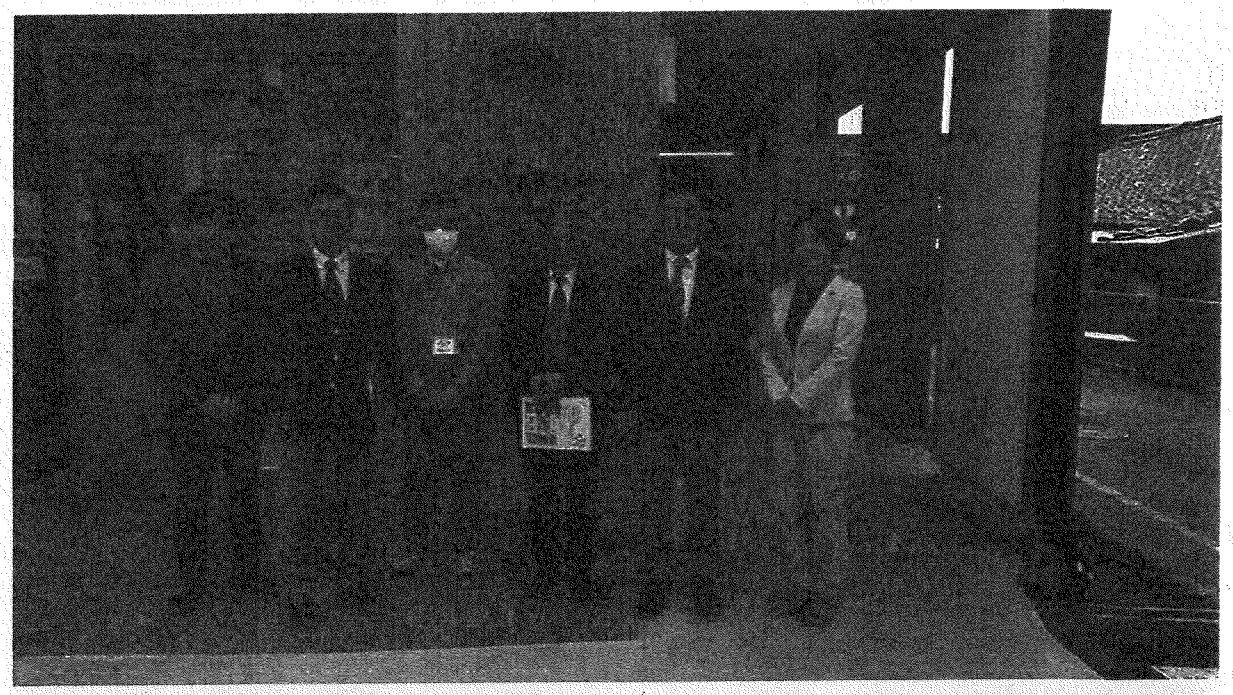
観光協会だけでなく、市や市民団体、実行委員会がいろいろなイベントを企画実行し、毎月イベントが行われていた。どこかの団体だけが実施していると、年間にイベントを行う機会は限られるが、協力することで多くの市民がイベントに関わり、市への愛着へつながることができる。また、観光の賑わい作りにもつながる参考にすべきやり方だと感じた。

金魚すくいが有名であるが、金魚すくいを宣伝イベントとして捉えており、参加料を無料で参加者者が増えることで、テレビ取材などが増え、テレビ取材で約１億 5,000 万円の宣伝効果があるということであった。坂井市でも、イベントによっては宣伝と考え市外へ向けて大きく発信するものが必要ではないかと感じた。

7．添付書類

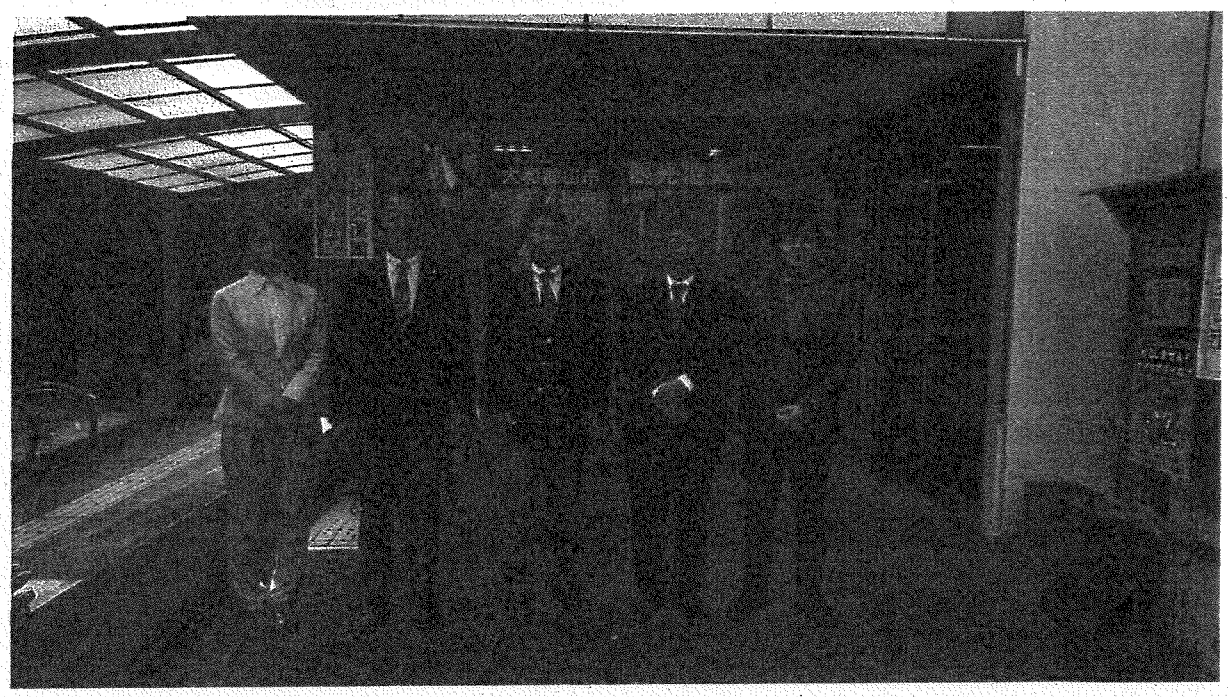
◆１日目

（1）子ども第三の居場所「いがっこの家　上野忍」の取り組みについて



◆２日目

（２）金魚とお城と桜を活かした観光戦略について



会派内供覧

[redacted]